新年特別授業

4th Jan. 2010

浩とブタ公
人はなぜ生きるか、を考える。

南部ヤスヒロ,相原コージ(2006)『4コマ哲学教室』イースト・プレス

正義とケアの葛藤
人はどう生きるか、を考える。

参考書：内村鑑三（鈴木範久訳）『代表的日本人』岩波文庫
新渡戸稲造（奈良本辰也訳）『武士道』三笠書房
山脇直司『公共哲学とは何か』ちくま新書

浩とブタ公

人はなぜ生きるか、を考える。

1．漫画を読む。

2．人の生きる意味、について、何か新しい視座が得られたフレーズ（あるいは場面）を書く。（複数回答可）

3．説明（授業）を聞く。

4．2．とは独立に、改めて得られたことを書く。（複数回答可）

5．分からなかったことを書く。（複数回答可）

価値判断と事実判断の区別

人間の存在（実存主義）

たくましい生命力

演繹法と帰納法

死生観

欲求段階説

宗教の意味

アイデンティティの確立

自由とは何か

仮言命法と定言命法と

正義とケアの葛藤

人はどう生きるか、を考える。

西欧思想の正義

東洋思想の正義

２つの正義における葛藤

「機会」と「機」

美しく生きるための地域づくり

西欧思想の正義論について

J.ロックの権利思想にもとづく西欧思想の正義

－個人の基本的自由の保障と平等
　道徳性の導出装置：公平な観察者（A.スミス）、無知のベール（J.ロールズ）

－分配的正義
　平等とすべき対象：基本財、ケイパビリティ、機会…
　個々人の生きる目的（人の行動原理）：*どうすれば成功するか*
　　各人のLife planへの責任の有無（R.ドォーキン）

－匿名社会の確立
　癒着による経済社会への悪影響（経済効率性）、不平等(経済格差の是正)
　利潤追求(私利私欲を生かすには必要な社会構造)

－ケアの倫理（C.ギリガン）
　L.コールバーグの葛藤

西欧思想観の近代日本への影響

－学問のすすめ（福沢諭吉）：万人平等思想

天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず

－公共哲学：滅私奉公から活私開公へ

－公共経済学の氾濫

近代ミクロ経済学による公共性の正当化

－公共選択論？（民意を集計するってどういうこと？）

「大欲」にもとづく公共的意思決定のありようとは？

私利私欲に走らないってことだけ？

東洋思想の正義論について

ー儒教（孔子、孟子、朱子学）～陽明学（王陽明）～武士道
　　知行合一

ー儒教の徳目（五常・五倫）
　　仁義礼智信
　　父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信

ーすべての個人に渡る平等思想ではない～分度（身分の限度）：二宮尊徳
　個々人の生きる目的（人の行動原理）：*どう行えば美しいか*
　　・嘘つき、卑怯、が最大の侮蔑（最も汚い行為）
　　西郷隆盛vs山岡鉄舟　上杉謙信vs武田信玄

ーケアの倫理（C.ギリガン）に融和的？
　　経済合理性、法論理性に先立つ、人としての生き方
　　…仏教が根深く存在している？

2つの正義における葛藤

ー個人の尊重　v.s.　地域社会（歴史性）の尊重　　ー自由　v.s.　人の道

○西欧観では、個人のlife planを尊重し、その自由を保障する どう社会をつくるか？

○東洋観では、天命を受けた個人が人道を学び、社会の中でどう美しく生きるか。

両世界観をつなぐもの：神への畏敬（創造主との契約、多神教（日本？））

ケアの倫理：私利私欲による行動の否定

禁欲の人生計画の陶冶：分配的正義論と武士道

基本的に合わないもの：外部観測⇔内部観測

機会の捉え方：形式的かつ設計されるもの⇔与えられた契機での「機用」の積み重ね

歴史はつくるもの（科学的予測）⇔歴史はつくられたもの

人はつくられたもの（創造主）⇔人はつくるもの（天道に沿って人道を身につける）

新しきもの中には修すべきことがあり、

古きもの中には見直すべきことがある。

修すべきこと：社会の設計論　　見直すべきこと：人間の教育論

機について

機会
- 与えられるもの　　西欧の正義
- つくられるもの（なおすもの）　東洋の正義

分散型社会（地方分権）の正当化

個人が何かをなすための機会を与えるために

－情報効率を高める（地域の人の方が情報を持っている）
－集中管理からリスクの分散へ　～安全の社会

個人が美しく生きるために（全機するために）

－大欲の元となる小善の積み重ね
－「何を」社会から「誰が」社会へ　～安心の社会

人々が美しく生きる社会づくり

地域社会の創造

地域創りは、作る（つくる）、のではなく、修す（なおす）もの。

「作る」は創造性のない大量生産社会に、「修す」は個性豊かな創造性ある地域社会と親和性が高い。（日本人の障子における心持ち）

地域の人びと

美しく生きる＝全機した生き方をする。

幼少期からの人の道に関わる教育・活動

文化資本の伝承（社会資本ではない）、初期教育と一体化

政治と行政

命もいらず、名もいらず、官位もいらず、金もいらぬという人は始末に困る。だが、この始末に困る人でなくては大事はできない。（中略）　正しい道を歩き続けているから自信があって何もいらないというのである。　『西郷隆盛の山岡鉄舟評』

土光敏夫、細川護熙、根本良一…　限りなく遠のいていく仁政

上杉鷹山の仁政に思う

人が「全機」するための一つの方法：儒学（教育）

「機」に見る鷹山の仁政

－君主としての宿命（前藩主、重定の養子）
－師との出会い
－天明の大飢饉と財政の破綻
－強力なブレーン（家臣）の存在

誓詩の奉納（マニフェストとは対照的）　～　義　（何をなすか、ではない）
興譲館の創立（建立ではなく、再建）　～　智　（庶民への教育（儒学））
農民への愛情（民の父母の精神）　～　仁　（政治と道徳の不可分性）
七家騒動（保守的家臣への配慮）　～　信　（敵対する人への信の心）
伝国の辞（推譲、重定への礼）　～　礼　（機をみて退く態度）
師への敬慕　~礼　（農民、庶民への講和活動）